

那覇西ロータリークラブ

国際ロータリー 2580 地区 創立 1962 年 6 月 4 日

2026年2月18日 週報 第2790

よいことのために
手をとりあおう



UNITE
FOR
GOOD



2025-26年度 RI 会長 フランチェスコ・アレツォ

地区ガバナー 中川雅雄
今年度会長テーマ

「Dignity」 & 「Engagement」

四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を
深めるか
4. みんなの為に
なるかどうか

本日のプログラム

2月18日(水)

- ・点鐘
- ・ロータリーソング
- ・日も風も星も
- ・会長報告
- ・幹事報告

会長 丸橋弘和 副会長：中村 敦・小林 充

幹事：江夏正浩

例会日 毎週水曜日 12時30分

例会場 沖縄ハーバービューホテル

事務局 那覇市松山 1-1-14 那覇共同ビル 6階

TEL：861-7824 FAX：861-7825

ビジター

迫 幸治 (那覇東) 山里 将 (浦添)

ゲスト

赤嶺洋平 (ゲストスピーカー)

濱崎貴央 (")

メークアップ会員

比嘉広明 (1/30 次年度意見交換会)

高平光一 (")

小林 充 (")

伊野波盛求 (1/26 那覇南) 安里清榮 (2/3 那覇)

ニコニコBOX (2026年2月4日)

合計 ¥3,000 累計¥175,000

山里 将 ギリギリセーフです。

(浦添) 名刺もバッジも忘れしました。

大城美穂子 皆様の応援のおかげで選抜甲子園に出場が決まりました。有難うございます！

例会報告

第2922回 (2026年2月4日)

出席報告

会員数	出席数	欠席数	出席率	訂正出席率
58名	41名	16名	72%	%

欠席会員

豊村、大城(博)、儀部、福重、照屋(紀)、石垣南風原、高平、福本、稲嶺、川畑、与古田、比嘉(圭)、近藤、宮城(圭)、野原会員

出席報告 2月、

会員数	4日	11日	18日	25日	日	平均
59名	72%	—%	%	%	%	%

2月度誕生祝い

名幸俊海(2月2日) 大城純市(2月5日)

豊村良春(2月9日) 城間 一(2月23日)

1月度皆勤バッジ

石川正一(43年) 小林 充(9年)

中村 敦(2年)

会長報告

理事会では、以下の点について議論、報告がなされました。事務局の将来的な雇用形態や方法については、協議事項から審議事項へと引き上げられ、結論としてプロジェクトチームを立ち上げて検討していくことが決定しました。青少年奉仕委員会の奨学生の派遣について、予定人数1名に対し約7名の応募がありました。選定方法について議論し、青少年奉仕委員会で精査した上で、次回の理事会で報告することになりました。



沖縄尚学高校が選抜高校野球(春の甲子園)に出場することが決定したため、臨時で寄付について審議を行いました。前回と同様に寄付を行うことを決議しました。

鹿児島中央ロータリー

ークラブと実施した高校生の青少年交流事業について、決算報告を含めた実施報告が行われました。

会長が出席した東京での地区ミーティングにおける表彰等の報告もありました。今期上期(7月~12月)で新入会員8名、退会2名の純増6名となり、2580地区(73クラブ中)で第4位の成績でした。

年次基金への1人当たりの寄付額は地区第3位でした。

EREY (Every Rotarian, Every Year) は地区内32クラブが受賞(沖縄では5クラブ)。100%ロータリー財団寄付クラブで、地区内40クラブが受賞(沖縄では6クラブ中1つ)。エンド・ポリオ・ナウ感謝状では地区内23クラブが対象となり、沖縄では那覇RCと那覇南RCのみでした。

幹事報告

各RC例会変更及び休会

2月24日(火)→26日(木) 地区大会へ振替

3月3日(火) 那覇西・那覇南RC 合同例会へ変更

3月10日(火)→11日(水) 石垣RC 記念例会へ振替

3月17日・3月31日休会 定款第7条第1節d項(1)

・浦添RC

2月20日(金)休会 定款第7条第1節d項(1)

2月27日(金)→26日(木) 地区大会へ振替

・那覇東RC

2月26日(木) 地区大会へ振替

・那覇北RC

(例会場変更)

2026年2月3日よりオリオンホテル那覇から沖縄ハーバービューホテルへ変更

ビジター費¥4,000 第1・第2火曜日12;30~第3は夜間例会(場所はその都度変更)

2月24日(火)→26日(木) 地区大会へ振替

3月3日(火) 18;30~20;30

横浜港北RCとの合同例会へ変更

・那覇南RC

3月2日(月)→2月26日(木) 地区大会へ振替

3月9日(月)→3月3日(火) 那覇・那覇西との合同例会へ変更

3月30日(火)休会 定款第7条第1節d項(1)

・名護RC

2月25日(水) 地区大会へ振替

卓話 「スポーツが地域と人をつなぐ力 琉球ゴールデンキングスの歩みと挑戦」 講師：沖縄バスケットボール社 取締役 濱崎 崇央 様

キングスは設立20年目を迎え、「沖縄をもっと元気に！」という活動理念を掲げています。2022-23シーズンのBリーグ初優勝を経て、現在は「沖縄を世界へ」という新たなミッションを設定しています。これは単にチームが世界に出るだけでなく、以下のよ

うな目標を含んでいます。「アジアNo.1の球団を目指す」「NBAチームを沖縄アリーナに誘致し、試合を行う」「八村塁選手や河村勇輝選手のように、キングスのユースから世界を目指す若手を育成する」ということです。



キングスは、BJリーグで4度、Bリーグで1度、そして第100回天皇杯での優勝経験を持ちます。これら3つの主要タイトルすべてで優勝経験があるチームは他にありません。

2023-24シーズンの売上高は約35億円で、Bリーグ全体で3位です(1位は千葉ジェッツの51億円、2位はアルバルク東京の36億円)。昨シーズンの平均来場者数は8,157名、今シーズン(現段階)は約8,200名です。沖縄アリーナの座席数(約8,500席)に対し、立ち見を含め最大8,745名を記録することもあります。EY Japanの調査によると、キングスが創出する社会的価値は1シーズンあたり182億円と算出されています。

来シーズンから始まる新リーグ「B プレミア」の参入条件(売上12億円、アリーナ確保、平均4,000名集客)は既にクリアしています。千葉ジェッツなどが新アリーナ建設により売上を伸ばす中、キングスは圧倒的なサービス、ホスピタリティ、エンターテインメント性の向上で差別化を図る方針です。

来シーズンから始まる新リーグ「B プレミア」の参入条件(売上12億円、アリーナ確保、平均4,000名集客)は既にクリアしています。千葉ジェッツなどが新アリーナ建設により売上を伸ばす中、キングスは圧倒的なサービス、ホスピタリティ、エンターテインメント性の向上で差別化を図る方針です。